

## 説教

### 義認：救いの言葉を世に伝えるために信頼されること

OIC の皆さん、おはようございます。

義認（義と認められること）とは、イエスの十字架による死によって永遠の赦しがもたらされ、私たちがもはや罪人ではなくなったということが神によって宣言されることです。

私たちの義認は神の計画によるものです。時が始まる前、その時、過ぎ去った後のことは聖書に書かれています。先月、私たちクリスチャンが「選ばれし者」であるということ、聖書がどのように伝えているかについてお話ししました。今日は、ローマ人への手紙第 10 章に書かれている、宇宙の主権王である神が、すべての人の救いを御言葉と選ばれし者である私たち教会の手の中に置いておられることの意味を明らかにしようと思います。

いつものように、パウロの発言の多くを説明するために、ローマ人への手紙第 10 章に書かれている内容を聖書の他の箇所と参照したいと思います。教会における最大の異端は、聖書を聖書で証明することのない神学や教理です。ですから、神の真理を保証するために関連性を確認することを気長に受け止めてください。もし私が聖書のある部分から別の部分へとさまよっているようであれば、どうか一緒にお付き合いください。ある聖句から別の聖句へのつながりを一緒に考えてください。このメッセージを、神の御言葉をめぐる大冒険としていただけたらと思います。

先週のメッセージでは、私たちは使徒パウロがローマ書で次のように述べているのを見ました。

**(ローマ書 9 : 31～32)**

31 しかし、イスラエルは義の律法を追い求めていたのに、その律法に達しませんでした。 32 なぜですか。イスラエルは、信仰によってではなく、行いによって達せられるかのように、考えたからです。彼らはつまずきの石につまずいたのです。

次に、ローマ教会のクリスチャンたちに向けて、ユダヤ人の失敗を、彼らがすべての人のための神の御言葉を見逃していることと結びつけて語っています。

**(ローマ書 10 : 1～4)**

1 兄弟たち、わたしは彼らが救われることを心から願い、彼らのために神に祈っています。 2 わたしは彼らが熱心に神に仕えていることを証しますが、この熱心さは、正しい認識に基づくものではありません。 3 なぜなら、神の義を知らず、自分の義を求めようとして、神の義に従わなかったからです。 4 キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。

西暦 55 年でさえ、イエスの使徒として知られ、聖霊の偉大な力を注がれていたこの有名な使徒が、(ローマ人への手紙 10.1) において、クリスチャンはみな兄弟姉妹であると明言していることに注目していただきたい。ここでもまた、パウロは生まれながらの同胞であるユダヤ人への思いを示しています。ユダヤ人がメシアであるイエスを頑なに拒絶していることを知っていても、心から彼らのために祈っていたのです。そして、(ローマ 10.2) には、彼らが熱心に神に仕えていることを証しますが、この熱心さは、正しい認識に基づくものではありません。と書かれています。このように、彼は神に対する宗教的熱意と神に対する知識を区別しています。宗教的な熱意とは、その人が神だと思っているものに対する感情の高ぶりかもしれません。神についての真の知識は、常に神との個人的な関係を含んでいます。私たちは先週モーセの話で学んだように、

出エジプト記 33 : 17 主はモーセに言われた。「わたしは、あなたのこの願いもかなえよう。わ

たしはあなたに好意を示し、あなたを名指しで選んだからである。」

注：神が私たちの名を知ってくださるには、私たちが神の名を知らなければならない！ローマ 10.14) (下記) でパウロがこのように宣言している。

ローマ 10 : 3 では、なぜなら、神の義を知らず、自分の義を求めようとして、神の義に従わなかったからです。と書かれています。先週のメッセージ「神、選ぶお方」で語ったように、「ユダヤ人は、メシアではなく律法のもとに身を置くことを誇りとしていました。ユダヤ人は律法、特にモーセの律法、つまり十戒に頼り続け、主ご自身には頼らなかったのです。イザヤの預言から 700 年後、イエスが現れた時、彼らはメシアであるイエスからも離れました。使徒ヨハネが次のように書いています。

ヨハネ 1 : 11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。

ローマ 10 : 4 に書かれたパウロの手紙ではこう書かれています。  
キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。

パウロはこのローマ人への手紙を雄弁にまとめながら、イエスの十字架上の犠牲を信じることによって、神の義がどのように与えられるべきかを示しています。この義認は、義のために律法を守ることを終わらせます。ユダヤ人であれ異邦人であれ、(ローマ 10.3) のように自分の義を確立しようと努力する者は、神に背き、メシアであるキリストから離れていく。(ローマ 10.4) が明らかにしているように、キリストは**律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために**。このように、ユダヤ人たちは、神との正しい関係を得ることにに関して、もうないものを求めていたのです！キリストを見いだすことは、信じるすべての人への義の賜物を見いだすことなのです。

ローマ 10 : 5-6 5 モーセは、律法による義について、「掟を守る人は掟によって生きる」と記しています。6 しかし、信仰による義については、こう述べられています。「心の中で『だれが天に上るか』と言ってはならない。」これは、キリストを引き降ろすことにほかなりません。

罪なきメシア、イエス以外に律法に完全に従順に生きたユダヤ人はいません。パウロが (ローマ 1.17) の冒頭で預言者ハバククの言葉を引用したように。(ハバクク 2 : 4)

福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

ここで、使徒パウロは旧約聖書を用いて、キリストに栄光を帰すためにその意味を改めて定義しています。彼は聖霊によって力を与えられ、自由にされたのであり、聖霊は彼を通して新約聖書のこの部分を書かれたのです。これは、復活したばかりのイエスがエマオへの道で二人の弟子に言われたルカの福音書 24 : 26-27 の言葉を、物理的あるいは具体的に実現したものです。

ルカの福音書 24 : 26-27 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのでないか。」 27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

そこでパウロは、イエスが旧約聖書を用いてご自身を説明されたのに従って、申命記 30 章を選び、律法 (ローマ 10.5) と信仰のみことば (ローマ 10.8) の対比を明らかにしている。(申命記 30 : 10-12) にはこう書かれています。

申命記 30 : 10-12 10 あなたが、あなたの神、主の御声に従って、この律法の書に記されている**戒めと掟**を守り、心を尽くし、魂を尽くして、あなたの神、主に立ち帰るからである。11 わたしが今日あなたに命じるこの戒めは難しすぎるものでもなく、遠く及ばぬものでもない。12 それは天にあるものではないから、「だれかが天に昇り、わたしたちのためにそれ (**【戒めと掟】**) を取って

来て聞かせてくれれば、それを行うことができるのだが」と言うには及ばない。

さて、次の数節で、律法に従うことを求めた旧約聖書の聖句を、聖霊の才気とパウロの知識が、逆の応用、すなわち、信仰「キリストにある」の言葉を宣べ伝えるために用いていることがわかるでしょう。

ローマ 10 : 4 **キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。**

また、パウロはローマ 10 : 6 でこう語っています。

ローマ 10 : 6 「心の中で『だれが天に上るか』と言ってはならない。』【これは、キリストを引き降ろすことにほかなりません。】

パウロはコンピューターを使い、Microsoft の Word で、“検索”と“置換”を利用したのかもしれませんが…。地上でモーセによって与えられた【戒めと掟】は、【これは、キリストを引き下ろすことにほかなりません。】という言葉に置き換えられました。なぜでしょうか？キリストはすでに天から降りて来られ、その使命を終えられたのです。モーセが天国で律法を探すなど言っていたように、今、天国でキリストを探すなど言っているのは、キリストがすでに降りてきて、私たちの罪のために死んでくださったからです。

さて、パウロは、モーセが次のように言った「律法」(申命記 30. 13) に対して、別の「解釈」を加えているのです。

申命記 30 : 13 海のかなたにあるものでもないから、「だれかが海のかなたに渡り、わたしたちのためにそれを取って来て聞かせてくれれば、それを行うことができるのだが」と言うには及ばない。

この言葉は(ローマ書 10 : 7) でこのように置き換えられています。

ローマ書 10 : 7 また、『だれが底なしの淵に下るか』と言ってもならない。』【これは、キリストを死者の中から引き上げることになります。】

底なしの淵(アビス)とは、神が悪魔を送り込み、最後にはサタン自身を送り込む霊的な牢獄です。そして神は、ご自身の目的のために地上に大混乱と破壊をもたらすために彼らを解放されます。

ヨハネの黙示録 20 : 1-3 1 わたしはまた、一人の天使が、底なしの淵の鍵と大きな鎖とを手にして、天から降って来るのを見た。 2 この天使は、悪魔でもサタンでもある、年を経たあの蛇、つまり竜を取り押さえ、千年の間縛っておき、 3 底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を惑わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。

パウロは「死者」の場所を底なしの淵としています。キリストは死んでよみがえられたのだから、人は義に必要なものを、モーセが律法について語ったように、海の向こうを見る必要もなければ底なしの淵を見る必要もないのです。ここに書かれている【これは、キリストを死者の中から引き上げることになります。】の必要はありません。なぜならキリストはよみがえられたのです！

ローマ 10 : 8 8 では、何とされているのだろうか。「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。

(申命記 30 : 14) でモーセはイスラエルの民にこう語っています。

申命記 30 : 14 御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それ【モーセを通して神が語られた律法】を行うことができる。

さて、パウロは律法とイエスの比較論をこう締めくくりました：キリストは律法の終わりです。モーセは、ユダヤの民族が旧約聖書の律法を信じ、語ることに従順であることが神との力であるとなりました。パウロも同様に、キリストが地上に来られた後も、それは人が何を信じ、何を語るかにある、と書いている。「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。

しかし、救われるためには、人は今、信仰の言葉を信じ、語らなければいけません！

ローマ 10：9　口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。

律法は、神が与え、民に命じて守らせたという事実を信じるが必要でした。神は、神との正しい関係を築くために、その律法に従って生きるよう、生か死かの努力をすることを要求されたのです。今、神との正しい関係、すなわち救いは、イエスが主であることを告白し、神がイエスを死からよみがえらせたことと信じる必要があります。・・・それは義認です。

クリスチャンの皆さん、ここ OIC や YouTube で、パウロが説明した OT 律法-モーセ-ユダヤ民族とパウロの説教-信仰の言葉（イエスの福音）-キリスト・イエス-全人類との間のこの複雑なつながりを知ることは、聖書を初めて読む人にとっては難しいことです。例えや比喻を考えてみるので、どうかお付き合いください。YouTube の視聴者の皆さん、そして今日ここにいらっしゃる遠くから来られているビジターの皆さん、ご容赦ください。しかし、この最も難しい箇所は、“あなたの頭の中を整理してみる”ために不可欠なものなのです。イエスの御霊は、あなたの頭を通して、あなたの心にイエスをもっと働きかけたいと願っておられます。神はこの箇所を聖書に記された方なのです。

### 大阪の鉄道路線でのたとえー類似性

申命記 30 章にあるモーセからユダヤ民族への「律法に従いなさい」というメッセージは、ここ大阪の阪神なんば線のようなものと想像してみてください。使徒パウロのローマ人への手紙にある「信仰のことばを信じなさい」というメッセージは、JR ゆめ咲線に似ています。この 2 つの路線はほぼ平行していて、JR の電車から阪神電車が見えることもありますよね。

モーセは紀元前 1446 年に律法を守るよう呼びかけました。パウロは西暦 55 年ごろ、信仰の言葉を信じなさいと呼びかけた。神は時の上におられるので、当然、初めから終わりまでを知っておられます。アブラハムから始まる信仰の英雄たちは、「信仰による救い」を受け入れました。ダビデ王は律法を尊重し、すべての人が従うように詩篇を書きました。しかしダビデは、彼の安全が神への完全な従順にあるのではなく、主との関係にあることを知っていました。神は、律法が阪神線のようにユダヤ民族を前進させ、JR のように「信仰の言葉」列車を横切るまで、メシア・イエスの出現を意図されたのです。キリストが律法の終わりであるというパウロの発言は、JR と阪神が西九条駅で交差して阪神電車が終わるようなもの、つまりイエスの十字架と復活のようなものです。

モーセはこう言いました：律法を天上に求めるな（申命記 30. 12）、海を越えて求めるな（申命記 30. 13）、しかし難しすぎる者でもなく、遠く及ばぬものでもない。（30：11）それどころか、みことばはあなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にあり、あなたがそれに従うことができるのです（30. 14）。

パウロが（ローマ 10. 6）で示しています。：「信仰のことば」を天に求めてはいけない（キリストはすでに下ってこられた）、（10. 7）死者の場所に求めてはいけない（キリストは死者の中からよみがえられた）、（10. 8）「信仰のことば」はあなたの近くに、あなたの口に、あなたの心にある、ということである。

モーセ：律法に従いなさい      パウロ：信じて告白しなさい

モーセの働きは、民を励まし、律法に従うように導くことでした。パウロによれば、私たちは何を告白するように指示されているのでしょうか？(ローマ 10.9) は、口でイエスを主と告白し、神がイエスを死者の中からよみがえらせたことを心で信じるなら、あなたがたは救われると教えています。そしてパウロはこのことをローマ 10：10 で明らかにしています。

ローマ 10：10  *実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。*

親愛なる聖徒の皆さん： 私は、悪魔が自分たちを真のクリスチャンではないと信じ込ませたクリスチャンを何人も知っています。彼らは自分の心の中にある悪を見続け、聖霊が信じる者に与える祝福された保証を失ってしまいました。神は、私たちの気まぐれな感情と悪魔を静めるために、この明確な機会を与えてくださいました。もしあなたが、神の裁きからあなたを救うためにイエスが犠牲になったことを信じた人生のある時点を思い出すなら、ただ神に祈りながらこの聖句を唱え、感情を忘れてください。私たちが自分自身、特に感情を真実だと信じている間は、この保証は戻ってこないでしょう。天国のイエスに祈り、イエスを主と告白し、信じることを**決意**するのです。

私は新約聖書の中で、ある男の不信仰がイエスによって暴かれた場所が好きです。悪魔に取りつかれた少年が、父親によってイエスのもとに連れてこられました。

マルコ 9：21-25  *21 イエスは父親に、「このようになったのは、いつごろからか」とお尋ねになった。父親は言った。「幼い時からです。 22 霊は息子を殺そうとして、もう何度も火の中や水の中に投げ込みました。おできになるなら、わたしどもを憐れんでお助けください。」 23 イエスは言われた。「『できれば』と言うか。信じる者には何でもできる。」 24 その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」 25 イエスは、群衆が走り寄って来るのを見ると、汚れた霊をお叱りになった。「ものも言わず、耳も聞こえさせない霊、わたしの命令だ。この子から出て行け。二度とこの子の中に入るな。」*

少年の父親は「おできになるなら」という言葉を間違ったところで使ってしまいました。「あなたには何でもできます。おできになるなら、わたしどもを憐れんでお助けください」というべきでした。

クリスチャンの人生には、“私は信じます。私の不信仰を助けてください！”と祈るべき時がたくさんあります。イエスに不信仰を助けてもらうことを恐れてはいけません。特に、救いの**祝福された保証**を失っている場合は。イエスは憐れみを示し、悪魔を追い出してくださいました。主はあなたの心を癒し、再び**祝福された保証**を持てるようにしてくださるのです。

ローマ 10：10b (注：bはa, bのように聖書の節の後半部分を表します。)

口で公に言い表して救われるのです。

今度は人間側の救いについて書かれています。クリスチャンの皆さん、聖霊は私たち皆に救いの信仰という賜物を与えてくださいました。聖書は (エペソ 2.8) にはっきりとこう語っています。

エペソ 2：8  *事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。*

しかし、ローマ 10：9 では「口でイエスは主であると公に言い表し」と書かれていて、ローマ 10：10b では「口で公に言い表して救われるのです。」とあります。

信仰の賜物を受け取るまで、罪人には何の意志もありません。罪人はサタンによって盲目にされ、外では悪魔の力の奴隷、内では反キリストの心の奴隷なのです。サタンは罪人に意志があるかのように欺くが、その人の心の弦は邪悪な音楽家サタンによって弾かれています。信仰によって赦しを受けた後 (エペソ 2.8)、そしてその瞬間だけ、罪人は本当に選ぶ意志を持つのです。イエス

が主であることを告白することは、その瞬間には口から出てこないかもしれないが、やがて出てくるに違いありません。イエスを告白するのが恥ずかしくて、地獄への道にとどまっている罪人がどれほどいるのでしょうか。声高に大胆に説教する必要はありませんが、自分なりのやり方で、イエスは主であると口で告白するのです。これはローマの信徒への手紙に書かれている奇妙な教えではありません。これは、あなたの創造主であり、新しい夫であるイエスとの新しい関係についてのすべてなのだ。

イエスは（マルコ 8 : 38）でこう語っています。

神に背いたこの罪深い時代に、わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子もまた、父の栄光に輝いて聖なる天使たちと共に来るときに、その者を恥じる。」

そうです、神の無条件の愛には条件があります。それは、祭壇で花嫁が「この人をあなたの夫としますか？」という問いかけに「はい」と答えることを拒むようなものです。「この人」とはイエスのことである。

### 教訓その1

霊的な生まれ変わりを経験することは、救いの賜物であるイエスの私たちの罪のための犠牲を受け取ることであり、また、その賜物を受け取った後、「イエスは主です」と口で告白して認めることです。

私は、約 1500 年の時を隔ててモーセと比較したパウロの複雑な説明を説明するために、交差し、時には平行する大阪の鉄道路線を選びました。電車は 1500 年離れて走っているが、イエス・キリストの十字架で交差しています。パウロによるユダヤ民族の歴史と新しく創造された教会の考察は、単純に心の中で信じて告白することで終わります。その部分は子供でも理解できることです。しかし、パウロはさらに次のように私たちを励ましています。

ローマ 10 : 11 実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。

イエスが（マルコ 8. 38）で警告されたように、人前での恥は聖なる神の前での恥に比べれば何でもないということを、覚えておいてください。

ローマ 10 : 12-13 12 ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。13 「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

人が神への切実な必要性に初めて気づいた場面は（創世記 4. 25）に記されています。

創世記 4 : 25-26 再び、アダムは妻を知った。彼女は男の子を産み、セトと名付けた。カインがアベルを殺したので、神が彼に代わる子を授け（シャト）られたからである。

26 セトにも男の子が生まれた。彼はその子をエノシュと名付けた。主の御名を呼び始めたのは、この時代のことである。

アダムとエバの家族は今、罪の報酬が死であることを経験により知っていました。

ローマ 6 : 24 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

切実さや絶望を救う方法はただ一つ、主の御名を呼ぶことです... 主の御名はイエスであり、主です。聖書にこう宣言されているとおります。

使徒 2 : 36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字

架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

さて、パウロは、パウロだけでなく、私たちすべてのクリスチャンが、周囲の罪人に対して負債を負っており、イエスの福音を聞いていない人々に対して義務があることを、すべてのクリスチャンに知らせています。

ローマ 10 : 14 ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。

## 教訓その2

「神が私たちの名を知るためには、私たちが神の名を知らなければならない！」数年前、私は日本のクリスチャンの割合と人口、救いの招きやその他のアウトリーチ伝道における反応率を予測計算しました。私の大まかな数字によると、日本の人口の約半分はイエスの御名を聞くことなく死ぬかもしれません！2024年には約6100万人です。この巨大な国は、実際には多くの狭い人間関係の中で動いています。日本ではプライバシーが他の多くの国よりも優先されます。親愛なるOICの兄弟姉妹の皆さん、御名を喜んで人々に伝えるだけで、違いが生まれるのです。

パウロが（ローマ 10 : 14）で「主を呼び求めること、主を信じること、宣べ伝えること」この3つのフレーズを記して以来、神はローマ書のこれらの箇所を用いて、多くのクリスチャンを宣教の場に送り出してきました。

しかし、天から心へ放たれる愛の矢、すなわち、私たちがこれらの失われた無知な魂に負っている責務は、（ローマ 10・15）に書かれています。

（ローマ 10 : 15）遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。

この箇所はイザヤ書 52 : 7 に詩的な形式で書かれています。

いかに美しいことか

山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。

彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え

救いを告げ

あなたの神は王となられた、と

シオンに向かって呼ばれる。

イザヤの聖霊からの靈感に満ちた言葉は、詩にぴったりです。イエス・キリストの福音は、悩める罪人たちに平和をもたらす良い知らせです。聖書は、主は平和であると宣言しています！キリストにある親愛なる兄弟姉妹の皆さん：霊的な戦いの季節、サタンが私をボクシング・アリーナのロープにかけた時、イエスの御霊は、この聖句が私の心と魂を満たすまで戦い続けさせます。主は平和です。しかし、私の実験的なクリスチャン生活は、聖書によって皆さんの前で確認されるべきです。

神のしもべギデオンによる神の力ある行為が物語っています。主はギデオンに天使を遣わされ、麦を隠れた場所で打ち、侵略してくるミディアン軍から麦を守られました。

士師記 6. 12 天使は、臆病なギデオンに言いました。「勇者よ、主はあなたと共におられます。」

ギデオンは、臆病な心よりも神のメッセージを信じて、その挑戦を受けました。

士師記 6 : 24 24 ギデオンはそこに主のための祭壇を築き、「平和の主」と名付けた。それは今日もなお、アビエゼルのオフラにあってそう呼ばれている。25 その夜、主はギデオンに言われた。「あ

あなたの父の若い雄牛一頭、すなわち七歳になる第二の若い牛を連れ出し、あなたの父のものであるバアルの祭壇を壊し、その傍らのアシェラ像を切り倒せ。

イザヤ書 52.7 の「シオン」、つまり神と神の民に対するこの地上での戦いが止むまでは、平和の後には常に戦いが続くというメッセージは明らかです。この世の支配者は天から追い出されたが、その子供たち、すなわち悪魔の子供たちに悪を鼓舞して歩き回っているのです。これらの悪の子らは、教会に対する妨害にたゆまぬ努力を惜しみません。ギデオンは神に従い、偽りの神バアルを崇拝する者たちの怒りを煽ることを選びました。ギデオンは何千もの兵士を倒すために召されたのです。

士師記 7.12 ミディアン人、アマレク人、東方の諸民族は、いなごのように数多く、平野に横たわっていた。らくだも海辺の砂のように数多く、数えきれなかった。

神はギデオンに、たった 300 個のラッパ、300 個のランタン、300 個の投石器、300 人の兵士で、数千人のミディアン人とアマレク人に勝利を与えられたのです！士師記 6 章と 7 章にある、ギデオンが主のために勇敢な戦士となったことについての聖書研究は、ご自身にお任せします。ギデオンの勝利は、彼が自分の臆病な恐れに打ち勝って主を信じたときに始まりました。そして、主のために祭壇を築いて主を礼拝したのです。そして、神の霊によって、彼は勇猛で賢い戦士となりました。「主は平和である」と知ることは、私たちがイエスの声を待ち望み、悪魔の混乱した攻撃を突き破る助けとなります。しかし、私たちにはギデオンの約束よりももっと良い約束があります。

マタイ 16 : 18 (AMPC) わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。

ローマ人への手紙 8 章と 9 章は、神は私たちが選ばれた者であるという確信を与えてくださったのは、イエスを呼び求める機会もなく罪人が滅びていくのを黙って見ているためではないということを知っています。私たちは、使徒パウロのように、イエスの福音を聞かなければ滅びゆく罪人たちに支払うべき負債があります。私たちは、神が定められたことを神の御手に委ねなければなりません。私たちは、“救われようとしている人たち”に手を差し伸べるために、今すぐ行動を起こさなければならないのです。ローマ 8 章は、イエスが約束されたもの、すなわち力を私たちが持っていることを意味しています！（ローマ 8.38-39）で語られているように、イエスはご自分の教会を建てるために、地獄の門、すべての墮落した天使、諸権力、諸悪霊に打ち勝たれます。

ギデオンのように、神は多くの臆病で弱いクリスチャンを選び、強い悪魔とその使いたちに勝利させます！神は、小麦の貯蔵庫での個人的な出会いで、神の天使が彼に語りかけたように、従順で臆病なギデオンを勇敢な戦士にされました。

< 賛美チームとの賛美 >

私たちは、サタンの支配下で滅びゆく者たちに「主は平和である」ということをもたらすための戦いの中にいます。神は勝利に必要なすべての力を持っています。あなたはそれを神に求めますか？イエスは御霊によって今日も OIC におられます。聖徒と罪人の心を調べるために、通路を行ったり来たりしておられます。しるしや奇跡を待ち望んでいるあなた... イエスはここにおられます。それは、悪魔に満ちた世界と、外見によって真実を隠すために売り渡された社会における奇跡です。イエスは、罪と悪に満ちたあなたの心を見抜いておられます。ただ主イエスの御名を呼び求め、救われましょう！

イエスを信じる選ばれた方たち、日本に満ちているバアルの祭壇を取り壊すことを恐れているのですか？神は私たちに、斧やシャベルではなく、信仰の言葉によってそれを行うよう求めておられます。神はあなたを遣わされる者として召しておられますか？あなたの祖国よりもクリスチャンが多い、遠く離れた土地にあなたを召されたとしても、驚かないでください。神はあなたの人生に計画を持っておられるのです。神は統計をご存知ですが、その数字が神の選択を支配することはあり



ません。神は選ぶ神です。召される神です。今日、イエスが私たちの間を歩いておられるとき、親愛なる聖徒の皆さん、神の御言葉を宣べ伝えることによって、悪と戦うようにと求めるイエスの平和の声が聞こえますか？私が OIC のために祈るように、あなたの席に祭壇を作ってください。イエスの血潮があなたに振りかけられるとき、祭壇を作ってください。シオンのためにラッパを吹けば、キリストの敵はイナゴやゴキブリのように逃げ去るでしょう。神の御霊の力によってのみ強められる弱いクリスチャンを恐れるからです。

祈りましょう。

#### 参照

**AMPC - Amplified Bible, Classic Edition (AMPC)**

Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by [The Lockman Foundation](#), La Habra, CA 90631.

All rights reserved.

**NASB - New American Standard Bible®**, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by [The Lockman Foundation](#). All rights reserved.